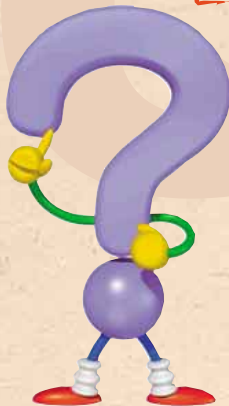
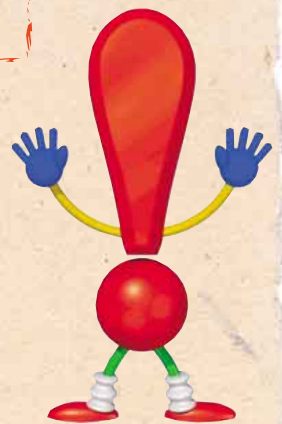


経営相談コーナー



当センターでは、企画課内に総合相談窓口を設けて、2人の相談員が、創業や経営に関する相談に応じています。どうぞお気軽に、ご相談ください。また、ホームページからも相談を受け付けておりますのでご利用下さい。今月号では、いくつかの相談事例の中から、創業以前の事例を紹介します。



Q 現在28歳のサラリーマンです。あと、2年ほどしてから、脱サラをして、創業したいと思っています。会社にいるうちに、準備しておくことは、どんな事でしょうか。

会社に勤めながら「創業の前になすべきこと」

- ① 「生活費を稼ぐこと」
- ② 「貯蓄に励むこと」
- ③ 「税金や社会的負担をすること」
- ④ 「配偶者を見つけること」
- ⑤ 「社会常識と社会的知識を身につけること」



A 会社に勤めたことによる利点は種々ありますが、一番は何と云っても「世の中の常識を知ることができた」ということです。このことを体得できなければ、創業どころか、世の中をうまく生き抜いていくことはできません。

創業するにあたっては、まず第一に「何をしたいかを定めること」です。そして「やりたい業界の情報を常につかむようアンテナを張りめぐらすこと」です。さらに「その業界情報に詳しい人脈、ネットワークを開業までに確立し、最大限、利用すること」です。

会社に勤めながら「創業の前になすべきこと」を列挙すれば次のとおりです。サラリーマン生活をしながら、

- ① 「生活費を稼ぐこと」
親のparasite（寄生、保護）から脱却して、独立することです。
- ② 「貯蓄に励むこと」
創業までに自己資金を貯めること、貯める能力を持つことは、独立自営業者の基本です。

③ 「税金や社会的負担をすること」

納税能力のない人に、助成金や公的借入の話は生まれません。各種の社会的負担に耐えてこそ、人を使う能力も生まれます。

④ 「配偶者を見つけること」

安定している会社勤めのあるときこそ、相手を見つける時期です。「一人扶持（ぶち=米）は食えぬが、二人扶持は食える」とは、よくいわれます。

⑤ 「社会常識と社会的知識を身につけること」

これが、会社に勤めた時にできる最大のメリットです。人は形から入りますから常識が必要であり、世の中の仕組みをつかむことは、ビジネスをする基本です。これに、ノリッジ（知識）やスキル（技術）が加わっていきます。常識とは、身なり、容姿、態度、躰です。これらからはずれば、人はあなたに会ってもくれません。つまり「商売にならない」ということです。ビジネスは商品、サービスを媒介にした、人間関係理論と心得ておくべきです。

お問い合わせ先 企画課 TEL 019-621-5386 FAX 019-621-5481
URL <http://www.joho-iwate.or.jp/>
E-mail joho@joho-iwate.or.jp